



数字でみる錦海リハ

その人らしい社会生活を送るための自動車運転再開支援

当院では自動車教習所との連携を図りながら自動車運転再開に向けた支援を行っており、教習所での評価には基本的に当院職員が同行しています。評価結果により入院中の支援では運転再開に至らなかったケースもあります。山陰という地域柄、自動車運転という移動手段を再獲得できるか否かは、その人の生活の質を左右すると考えます。今後は評価だけにとどまらず、入院中の支援では運転再開と至らなかったケースへの運転再開に向けたリハビリの充実を図り、地域の方の生活がより安全にその人らしく送られることを支援していきます。



自動車運転再開の件数(2022年)

新しい小児外来リハビリテーションの訓練室ができました

2023年5月に小さなお子さんでも安心して遊べるスペースを確保するために、新しいお部屋が完成しました!このお部屋には、お絵かきができる大きなホワイトボードがあり、楽しみながらリハビリができるようになっています。



専門雑誌・書籍掲載

- 角田賢(医師・病院長)「直に出会う」ことの重要性 News Letter No45、一般社団法人日本リハビリテーション病院・施設協会、2023.5.1
- 野坂進之介(理学療法士) Prefrontal activation during dual-task seated stepping and walking performed by subacute stroke patients with hemiplegia Frontiers in Neuroscience、2023.5.5
- 角田賢(医師・病院長) 錦海リハビリテーション病院におけるリハビリの取組み【その1】 Visionと戦略Vol.232 2023年4月号、保健・医療・福祉サービス研究会、2023.5.20
- 角田賢(医師・病院長) 錦海リハビリテーション病院におけるリハビリの取組み【その2】 Visionと戦略Vol.233 2023年7月号、保健・医療・福祉サービス研究会、2023.6.20
- 角田賢(医師・病院長) 地域共生社会実現のために回復期は何をまずすべきか〜地域リハビリテーションの中の回復期の使命〜 回復期リハビリテーション第22巻第2号、一般社団法人回復期リハビリテーション病棟協会、2023.7

外部講演

- 北山朋宏(作業療法士・リハビリ技術部課長) 生涯教育制度2020の概要と解説 令和5年度鳥取県作業療法士会総会後研修会、鳥取県作業療法士会主催、2023.5.21、オンライン
- 遠藤美紀(理学療法士・リハビリ技術部主任) フレイルの説明、フレイルに関連した栄養と口の健康の評価 鳥谷香蓮(理学療法士) フレイル予防に重要な栄養と口の健康 米子市フレイル予防事業、米子市主催、2023.6.13、米子市
- 藤井春美(看護師・副院長) 人材管理Ⅰ 令和5年度認定看護管理者教育課程ファーストレベル、鳥取県看護協会主催、2023.6.15、鳥取市
- 田村篤人(言語聴覚士) 失語症と合併しやすい障害について 失語症者向け意思疎通支援者養成研修(アドバンスコース)、鳥取県主催、2023.6.19、鳥取市
- 野坂進之介(理学療法士) フレイルおよび認知症予防のカギとなる「運動」について学ぶ 米子市フレイル予防事業、米子市主催、2023.6.20、米子市
- 足立睦未(理学療法士・リハビリ技術部副主任) フレイルおよび認知症予防のカギとなる「運動」について学ぶ 米子市フレイル予防事業、米子市主催、2023.6.27、米子市
- 北山朋宏(作業療法士・リハビリ技術部課長) 作業療法生涯教育概論 令和4年度前期現職者共通研修会、鳥取県作業療法士会主催、2023.7.2、オンライン
- 足立睦未(理学療法士・リハビリ技術部副主任) 歩く力を鍛えてのぼそ健康寿命 米子市フレイル予防事業、米子市主催、2023.7.11、米子市
- 永島敬子(言語聴覚士) 食事に関する基礎知識 介護初任者研修、こうほうえん主催、2023.7.12、米子市
- 今田健(理学療法士・リハビリ技術部次長)、遠藤美紀(理学療法士・リハビリ技術部主任)、足立睦未(理学療法士・リハビリ技術部副主任)、鳥谷香蓮(理学療法士) 腰痛対策を組織で取り組むことで、再発率と欠勤日数は減少する -フレイルとの関連- 玉真園職員研修会、鳥取県介護労働安定センター主催、2023.7.24、大山町
- 横木貴史(理学療法士) 転倒・転落に気を付けてフレイルを予防しよう 米子市フレイル予防事業、米子市主催、2023.7.25、米子市

- 田村篤人(言語聴覚士) 失語症概論 三好綾(言語聴覚士) コミュニケーション支援技法Ⅰ 失語症者向け意思疎通支援者養成研修、鳥取県主催、2023.8.13、米子市
- 角田賢(医師・病院長) リハビリテーション連携に必要なICFの知識 第40回松江市中地圏連携バス合同委員会研修会、松江市中地圏連携バス合同委員会主催、2023.8.17、松江市
- 野坂進之介(理学療法士) フレイルにつながる腰痛への対策 米子市フレイル予防事業、米子市主催、2023.8.22、米子市
- 野坂進之介、板持流宣(理学療法士) 身体介助の方法 失語症者向け意思疎通支援者養成研修、鳥取県主催、2023.8.27、米子市
- 平野正樹(作業療法士・リハビリ技術部主任)、川上敏司(作業療法士) コミュニケーション支援技法Ⅱ実習等 失語症者向け意思疎通支援者養成講座「アドバンスコース」、山陰言語聴覚士協会主催、2023.9.3、鳥取市
- 木嶋恵美(管理栄養士) 経口摂取支援を維持するための在宅での取り組み THE症例検討会 第15回山陰摂食嚥下研究会、山陰摂食・嚥下研究会/鳥取県薬剤師会/アポットジャパン合同会社/株式会社大塚製薬工場主催、2023.9.10、米子市
- 神保綾(社会福祉士) 設立30周年記念企画・西部会員活動報告『継往開来〜共に築く鳥取県社会福祉士の未来〜』 2023年度第1回西部地区研修会、鳥取県社会福祉士会主催、2023.9.10、米子市
- 田村篤人(言語聴覚士) 失語症の有る人の日常生活とニーズ 失語症者向け意思疎通支援者養成研修、鳥取県主催、2023.9.10、米子市
- 三好綾(言語聴覚士) コミュニケーション支援技法Ⅰ 失語症者向け意思疎通支援者養成研修、鳥取県主催、2023.9.11、米子市
- 角田賢(医師・病院長) Our Team〜繋ぐ想い回復期から地域社会へ〜 沖縄回復期リハビリテーション病棟協会 第10回研究大会、沖縄県回復期リハビリテーション病棟協会主催、2023.9.30、沖縄県

学会発表

- 井後雅之(「医師・名誉院長」) Egocentric disorientationを伴わない新規の場所での道順障害の一例 第49回日本リハビリテーション医学会中国・四国地方会、2023.8.6、米子市
- 北山朋宏(作業療法士・リハビリ技術部課長) 模擬講義を行うことで大学教授としての社会復帰を目指した一症例〜多疾患患者への対応を踏まえて〜 野坂進之介(理学療法士) 脳卒中を有する患者におけるデュアルタスクによる座位ステップング中の前頭野活性化 第54回中国四国リハビリテーション医学研究会、2023.8.6、米子市

*氏名、職員の肩書は掲載、開催時点のものであり現在は変更があります。

診療方針：わたくしたちは 回復的リハビリテーション医療と地域連携を通して 患者さんの社会参加を支援します。

錦海リハビリテーション病院 〒683-0825 鳥取県米子市錦海町3-4-5 TEL 0859-34-2300【代表】 FAX 0859-34-2303



KINKAI NEWS

REHABILITATION HOSPITAL



錦海リハビリテーション病院ニュース

発行：社会福祉法人こうほうえん 錦海リハビリテーション病院
TEL：0859-34-2300【代表】
E-mail：kinkai-hp@kohoehn.jp
URL：https://www.kinkai-rehab.jp

2023 VOL. 18



SPECIAL 最前線 1

身体拘束と回復期リハビリテーション病棟

2024年度診療報酬改定の議論で「医療分野での身体拘束の縮小・廃止」も最重要論点の1つに

2024年の診療報酬改定の議論が中医協で進んでいます。Web経由で会議資料が当日には公開され、医療系ニュースサイトですぐにその議論の様子まで報道される時代になりました。今後の医療をどうしていきたいと厚労省が考えているのか、次回改定でどこに重点で置かれているのか、この資料を眺めるとそんなものが見えてきます。今年もいつものように回復期リハビリテーション病棟に関連する項目を中心にこの資料を眺めました。今回は、実績指数、入退院支援、第3者評価受審、栄養管理、嚥下障害などが議論されているようです。



医師、看護師、介護福祉士、リハビスタッフ等の多職種で行うまくれん隊カンファレンスの様子。

この議論の中、特筆すべきなのは「医療分野での身体拘束の縮小・廃止」も最重要論点の1つに位置づけられていることです。今回実態調査の結果として出てきた資料を見ていく中で最も驚くべきことは、他の入院料を算定している急性期・回復期の病棟と比較して、回復期リハビリテーション病棟での身体拘束実施率が最も高くなっていることです。グラフの数字を見ていくと回復期リハ病棟の3割以上の病棟で入院患者さんの30%以上を身体拘束していると読み取れます。信じられないことですが、全患者の90%以上を拘束していると報告している病院さえも存在しています。ライン・チ



当院では、転倒・転落対策チーム「まくれん隊」による転倒・転落の発生状況や原因分析を行い、居室のレイアウトを変更している。写真は、「まくれん隊」による居室レイアウト変更の様子。

ュープの自己抜去と転倒転落の防止が主な拘束理由で、拘束された患者さんの7割近くが常時拘束されているとのこと。身体機能、活動能力の向上を目指すべく回復期リハビリテーション病棟で常時拘束しているのはいったいなんなのか、何をしたいのか、と感じてしまいます。

当院には抑制帯、拘束ベルト、ミトンといった身体拘束に用いる物品は存在しません。

当院には抑制帯、拘束ベルト、ミトンといった身体拘束に用いる物品は存在しません。当院に転院する直前まで身体抑制をされていたという患者さんもおられますが、当然、入院当日から中止となります。そのぶん、病棟スタッフの安全へ向けた努力、より安全な環境とするための工夫など様々な取り組みのおかげで、身体抑制せずにリハビリテーションを実施しています。どうすればこれらの抑制の道具を使わずに安全性を保つことができるか、試行錯誤してくれています。

患者さんの尊厳に対して目を向けることの重要性

あらゆる行為には良い面と悪い面があります。「医療安全」という側面が過剰に強調され、身体抑制が正当化されていますが、それにより損なわれる機能回復や患者さんの尊厳に対して目を向けることの重要性が今回の診療報酬改定でどのように議論され、反映されるのか、今後の議論に注目していく必要があります。

社会福祉法人 こうほうえん 錦海リハビリテーション病院 病院長 角田 賢

SPECIAL 最前線 2

中国の上海、成都（四川省）、蘇州の3つの都市の高齢者施設を視察しました

2020年1月に中国蘇州市で高齢者施設を運営する天易養老と介護・リハビリテーション事業戦略的支援契約をむすんだ直後、コロナ禍の影響で往来することが非常に困難となりました。この間も職員を中国に派遣し、リハや介護の指導をおこなってきました。ようやく両国間の往来が可能となり、7月から8月にかけて、上海、成都（四川省）、蘇州の3つの都市の高齢者施設を視察してきました。



成都（四川省）の施設でスタッフと打ち合わせ

中国は日本と比べおよそ30年遅れて高齢化が進行中です。今後の高齢化の進行する速度は日本を超えており、早急な介護システムの構築、リハビリテーション体制の確立が求められています。

今回の3都市の視察で感じたことは、「未来と現在と過去の混在」です。AIやICT技術を用いたシステムを構築した見守りのシステムがすでに高齢者施設で活用されており、それを在宅ケアにも導入する仕組みが導入されようとしている他、日本の地域包括ケアシステムを模した地域ケアの仕組みを導入が試みられ、整備されているベッドなどの物品も日本に遜色ないものが使用されており、今後の少子高齢化



成都（四川省）の施設スタッフへの講義

今回の訪中で最も嬉しかったことは、こうほうえんの2人の職員の指導がきちんと継続してケアの中で生かされていたことでした。特に口腔ケア、食事摂取と、オムツを外し、トイレでの排泄を目指すケアが根付いていることを自分の目で確認できたことが今回の視察の最大の収穫でした。

日本に回復期リハビリテーション病棟ができてもうすぐ25年。30年遅れで進む中国で高齢化が進んでいるということは、あと5年で「回復期リハビリテーション」が中国でも必要になると実感しました。



江蘇省（蘇州市）の施設で介護やリハビリについての討論

社会福祉法人 こうほうえん
錦海リハビリテーション病院
病院長 角田 賢

シミュレーター（SiDS）を導入し、さらに自動車学校と協働で自動車運転適性検査を行うなど地域と連携した社会復帰へのサポートを行っています。

また、自動車運転評価についてのパンフレットを作成することで、患者さん、ご家族に対して検査の目的や必要性に対して理解が深まるように支援を行っています。



簡易自動車運転シミュレーター（SiDS）での運転評価の様子

作業療法ではこれらの取り組みは専門チームを設け、質向上に向けた活動をしています。生活範囲拡大への一助となっています。



今後の生活を想定した調理訓練の様子

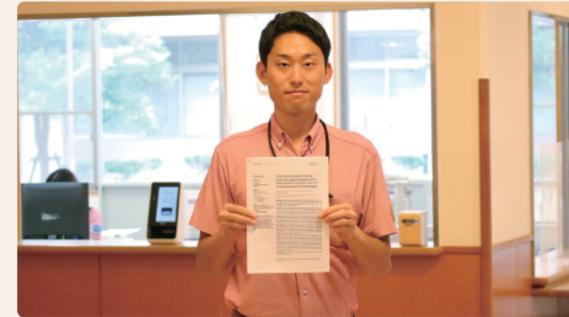
へ向けた施策がどんどん進んでいると感じる一方で、リハビリテーション体制はまだ不十分で、私が医師になった30年前の日本を彷彿とさせるようなケアの現場がそこにはまだありました。

TOPICS 01

学術雑誌 Frontiers in Neuroscience(スイス)に研究論文が掲載されました

研究論文「和名:亜急性期脳卒中片麻痺患者における二重課題による座位ステップング、歩行中の前頭前野活性化」を野坂進之介理学療法士が今田健次長らと共同執筆し、Frontiers in Neuroscience に掲載されました。

前頭前野は新しい運動を学習する際に優先的に活動し、リハビリテーションにおいても重要な役割を果たしています。二重課題歩行により前頭前野は活性化されることは報告されていますが、脳卒中を有する患者は歩くことが難しい方も多いため課題でした。本研究ではNIRSを使用して前頭前野の血流変化を測定し、歩くことが難しい患者にとっても、座ってできる二重課題（認知課題＋足踏み課題）が前頭前野を活性化させる有効な手段となる可能性を新たな知見として報告しました。



論文発表した野坂進之介 理学療法士

TOPICS 03

令和5年度第1回 養和会・こうほうえん職員合同研修会を開催しました

2023年5月20日（土）、第1回養和会・こうほうえん職員合同研修会を養和病院地域交流ホールにて開催しました。

今回は長崎リハビリテーション病院理事長栗原正紀先生をお迎えし、「これからの地域医療には地域リハマインドが必要～地域密着型病院の位置づけ検討～」のタイトルでご講演いただきました。当日は両法人あわせて100名余りの職員が参集し熱心に聴講しました。地域リハビリの拠点として地域包括ケアに如何に寄与していくことができるのか、多くの気づきと学びを得る機会となりました。



一般社団法人是真会 長崎リハビリテーション病院理事長 栗原正紀 先生

TOPICS 02

ロンドン五輪ボクシングミドル級金メダリストである村田諒太さんが当院を視察されました

2023年5月26日、ロンドン五輪ボクシングミドル級金メダリストであり元WBA世界ミドル級スーパー王者の村田諒太さんが当院を視察されました。

角田賢病院長によるリハビリテーション医療や介護予防に関するレクチャーの後、通所リハビリテーションきんかい、回復期リハビリテーション病棟を見学され当院スタッフと意見を交換させていただきました。村田諒太さんは今年3月に現役を引退され、現在は福祉を含む様々な社会問題の解決に対し自身にできることを模索中とのことで、病院長へ熱心に質問される姿が印象的でした。私たちにとっても日頃体験することのない多くの刺激をいただく機会となりました。



視察後の職員との集合写真、写真中央が村田諒太さん

TOPICS 04

和食の専門調理師によるメニューを提供しました

土用の丑の日をやや先取りし、2023年7月28日に調理師考案の特別メニューを提供しました。メニューはうな丼、前菜盛り合わせ（う巻き、揚げ茄子南蛮、夏野菜の寒天寄せ、胡瓜の胡麻酢漬け）、冷やし茶わん蒸し、吸物、ほうじ茶ムースです。普段より豪華な見た目や内容、味に大変喜んでおられる顔を拝見でき、うれしいお言葉もたくさん頂戴しました。

このような年2回の特別メニューや、ほぼ毎月の地元の鮮魚を使用した刺身や天ぷらの提供などを継続し、食を通じた楽しみや、リハビリを行うための栄養が摂れる食事提供に努めて参ります。



土用の丑の日に合わせてのスペシャルメニュー